

令和6年度 三高時報 第2号

トップページの更新情報

新聞委員会が『三高時報』第2号を作成しました。

記事

○ この夏、上位大会出場を果たした部活動が出ています。その内容を部の代表者に紹介してもらいました。

1 なぎなた部〔全国高等学校総合体育大会なぎなた競技大会〕

「先輩方をインターハイに連れて行けるように頑張ります。」この言葉を後輩から聞いた時、部長として仲間を必ずインターハイへ連れて行く、と心に決めました。しかし、4月の関東予選で怪我をしまい、関東の切符は掴んだものの大会に出場することができませんでした。怪我をした期間は苦しい日々が続きましたが、チームが成長するために今できる最善のことを考え、稽古に励みました。

インターハイ予選当日は、持っている力を出し切り、全ての試合競技でインターハイ出場権を獲得しました。そこからインターハイまでの約1カ月半、「団体ベスト8」を目標に、日々課題に取り組みました。

本番は持てる力を出し切ったものの、全国の壁は高く、予選リーグ敗退で終わりました。

日々の苦しい稽古を共に乗り越えた仲間や、3年間支えてくれた家族・先生方・友人の支えがあり、ここまで頑張れたことに感謝しています。そして、今回の経験を生かして後輩たちが1年後に、必ずインターハイの舞台に戻ってきて活躍することを応援しています。

(3-3 高安 愛菜)



2 文芸部〔全国高等学校総合文化祭文芸部門〕

昨年の総文祭は緊張でいっぱいだったので、今年はとにかく楽しむことを目標にしました。しかし、そんなことを呑気に言う前にやらなければいけないことがありました。そう、作品作り……！

文芸部門は事前に作品の提出が求められていました。ということで、早速作って最高の作品を期限に余裕をもって提出……できませんでした……。何も浮かばないしまとまらないし、まさに修羅場でしたね。顧問の先生方に助けていただき、なんとか期限ぎりぎりに提出することができました。本当に間に合わなさそうで、大会よりも緊張したことを覚えています。普段からアイデアメモみたいなものを付けておこうと決意しました。

修羅場から無事に逃げ切れた私に怖いものはなく、また、二回目の参加ということであまり緊張もしなかったため「楽しむ」という目標を達成することができました。このような貴重な経験をさせていただけたことに感謝し、自らの成長につなげたいと思います。

(3-4 柳橋 里音)



3 文芸部〔関東地区高等学校文芸大会〕

最初に先生から「関東大会に行く」とメッセージがきたとき、目を疑いました。まさか私が選ばれるとは。

考える間にもズンズンと話は進んでいき、思いを巡らせている暇もなく大会の日はやってきました。緊張しっぱなしの心臓を抱え会場に入ってみれば、存外冷たい空気はなく、近くに座っていた子たちと談笑して気持ちを軽くすることが出来ました。

大会の内容としては、午前、関東全国から集まった高校生たちとグループに分かれて、単語カードを取捨選択し短歌を作るゲームをしたり、事前に自分が作っておいた短歌を読み合い感想を言い合ったりと、交流を深めました。午後は講師の先生が、集められた短歌の中から幾つか優秀なものを選出し、自己解釈や批評をしてくださいました。このような貴重で楽しい経験が出来て、本当に良かったです。この事を、未来の自分に繋げて糧にすることが出来るよう、励んでいきたいと思います。

(1-5 武井 礼美)

